

各国の未活用労働指標の状況

ILO決議	日本	韓国	アメリカ <sup>※1</sup>	EU <sup>※3</sup>
LU1	未活用労働指標 1 (新定義の失業率)	失業率	U3 (公式の失業率)	失業率 <sup>※4</sup>
LU2	未活用労働指標 2 (追加就業希望就業者を 加えた率)	雇傭補助指標 1	—	不完全雇用パートタイム 労働者を加えた率
LU3	未活用労働指標 3 (潜在労働力人口を加えた率)	雇傭補助指標 2	( U5 <sup>※2</sup> (縁辺労働者を 含む指標) )	追加的な潜在労働力人口 を加えた率
LU4	未活用労働指標 4 (追加就業希望就業者と 潜在労働力人口を加えた率)	雇傭補助指標 3	( U6 <sup>※2</sup> (縁辺労働者・経済的な 理由による短時間 労働者を含む指標) )	不完全雇用パートタイム 労働者と追加的な潜在労働 力人口を加えた率

平成 29 年 2 月現在で統計局が把握している情報に基づき作成

※1 アメリカは、U1～U6の指標を公表している。上の表に掲載していない指標は以下のとおり：

U1：失業期間が15週以上の失業者を対象とした率

U2：失職者（自発的な離職でない者）及び一時的な雇用契約を満了して離職した者を対象とした率

U4：失業者に、求職意欲喪失者を加えた率

※2 アメリカの指標U5・U6の構成要素である縁辺労働者（marginally attached to the labor force）は、仕事がなく、仕事があればすぐに就くことができ、過去12か月に仕事を探していたもののこの4週間に仕事を探していない者をいう。「仕事を探しているがすぐに就くことができない者」を含んでおらず、ILO決議の潜在労働力人口の一部となっている。

また、U6の構成要素における「経済的な理由」（economic reasons）とは、労働時間の縮減（slack work）、事業状況の悪化（unfavorable business conditions）、フルタイムの仕事が見つからない（inability to find full-time）、季節的な需要減（seasonal declines in demand）をいう。

※3 Eurostat のホームページ上でLU指標の構成要素を公開し、LU指標を算出可能にしている。

※4 EUの失業率は、ILO決議に定めるオプション要件（2週間以内に就業可能な者）を適用した率となっている。

（出典）韓国：2015年度に統計局が実施した海外照会結果の回答 アメリカ：<https://www.bls.gov/news.release/empst.htm>

EU：[http://ec.europa.eu/eurostat/statistics-explained/index.php/Underemployment\\_and\\_potential\\_additional\\_labour\\_force\\_statistics](http://ec.europa.eu/eurostat/statistics-explained/index.php/Underemployment_and_potential_additional_labour_force_statistics)

### 【参考1】アメリカにおける失業・労働力未活用労働指標

失業率だけでは捉えきれない失業に関する多面的な情報を得ることを目的として、アメリカでは1970年代からU指標と呼ばれる失業・労働力未活用労働指標を算出している。これは、失業の概念を拡張又は絞り込んだ複数の失業・労働力未活用労働指標を算出することで、失業の深刻度や、失業に近い状態の人々の動向を捉えようとするものである。

1994年のCPS改正に伴い、U指標の内容も改定され、現在は深刻度の高い順にU-1からU-6までの六つの指標が作成されている。

U-1：(長期失業率) 文民労働力人口(軍人を除く労働力人口)に占める、失業期間15週間以上の失業者の割合

U-2：(失職率) 文民労働力人口に占める失職失業者及び一時的な雇用の雇用契約が満了したことにより離職した失業者の割合

U-3：(アメリカの公式失業率) 文民労働力人口に占める失業者の割合

U-4：(求職意欲喪失者を含む指標) 文民労働力人口及び求職意欲喪失者に占める、失業者及び求職意欲喪失者の割合

ここで、求職意欲喪失者(discouraged workers)とは、

就業希望の非労働力人口のうち、適当な仕事がありそうにないため現在仕事を探しておらず、仕事があればすぐ就くことができ、過去1年間に求職活動を行ったことがあるが、過去4週間以内に仕事を探さなかったため失業者とならない者

U-5：(縁辺労働者を含む指標) 文民労働力人口及び縁辺労働者に占める、失業者、求職意欲喪失者及びその他の縁辺労働者の割合

ここで、縁辺労働者(marginally attached workers)とは、

就業希望の非労働力人口のうち、仕事があればすぐ就くことができ、過去1年間に求職活動を行ったことがあるが、過去4週間以内に仕事を探さなかったため失業者とならない者(現在仕事を探していない理由を問わない点が「求職意欲喪失者」と異なる。)

U-6：(縁辺労働者・経済的な理由による短時間就業者を含む指標) 文民労働力人口及び縁辺労働者に占める、失業者、縁辺労働者及び経済的な理由による短時間就業者の割合

ここで、経済的な理由による短時間就業者

(persons employed part time for economic reasons)とは、

週35時間以上の労働時間を希望しているが、実際の労働時間が週35時間未満であり、その理由が事業不振などによる労働時間の縮減や、週35時間以上の仕事を探せなかったなどの経済的な理由である者